

## デルタ性大陸棚のオート層序学: 開拓へ向けてのアイデア Autostratigraphy of delta-feeding continental shelves: A strategy to explore

武藤 鉄司<sup>1\*</sup>  
MUTO, Tetsuji<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 長崎大学水産・環境科学総合研究科

<sup>1</sup> Graduate School of Fisheries Science and Environmental Studies, Nagasaki University

河川デルタの前進・後退を繰り返しながら成長する大陸棚について、そのオート層序学を開拓するための予察的考察を披露したい。オート層序学は、堆積系の非平衡応答と決定論的オートジェネシスの理解に根差した成因論的層序学の新しい枠組みである。これまでのオート層序学は単調な海水準上昇もしくは単調な海水準下降のもとでのデルタ単体を対象としてきたにすぎない。これからのオート層序学の展開においては、より大きな時間空間スケールへ適用できるよう、枠組みを拡張・汎用化させることが肝要と思われる。なぜなら、時間空間スケールを大きくとるほど非平衡応答は顕著となり、オート層序学に立脚した考察が一層必須かつ有効となるからだ。この拡張戦略のもと、沖積河川上流端?デルタ海岸?大陸棚外縁を一つの堆積系として捉え、多サイクル海水準変動のもとでのマクロな地層・地形形成過程とその結果としてのマクロな層序構造を説明するオート層序学を構築したいと考えている。この場合、デルタは大陸棚堆積系の構成要素であると同時に大陸棚成長の主駆動部でもある。したがって、デルタの非平衡応答の理解が基礎となるが、考察において最も注目すべき点は、大陸棚が海水準変動を何度も経験しながら成長する過程でデルタおよび大陸棚全系の非平衡応答が変貌していくと予想されることである。非平衡応答が具体的にどう変わり、そのことが大陸棚のマクロ層序にどう反映されるのかを突き止めたい。これによって、大陸棚オート層序学の端緒を切り拓きたいと考えている。

キーワード: オート層序学, 大陸棚, デルタ, 海水準変動, モデル実験, 非平衡応答

Keywords: autostratigraphy, continental shelf, river deltas, sea level changes, model experiment, non-equilibrium response